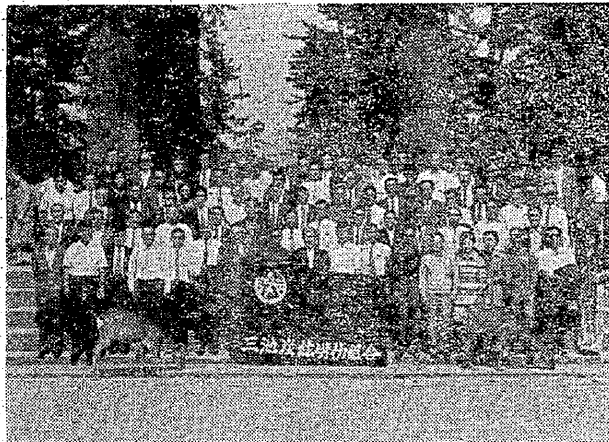


花やか第12回敬老会



奈良公園での記念撮影。鹿もいつしよにやつてきて、パチリ……。

立看板にも涙流れて

港務一分会 志多田 照雄

東京旅行記

今次東京旅行は、三池主婦会と光の御光旅行で行った。参加者は、総勢七十八名で、はじめての企画だったにもかかわらず、執行部および旅行会の周到な計画と、温かい熱意により行われた。われわれ退職者一同は異口同音に、「大名旅行のようだと賞讃した次第でした。衷心から感謝の意を表します。

さて東京旅行は、九月二十八日より十月三日までの、五泊六日に、大阪・奈良・京都・東京・日

この人たちは、帰路につく際、再度東京駅ホームまで見送って下さったのです。本堂にあらがうごさいました。

来年は、さらに本年の経験を生かして、立派な企画ができることでしょう。

心から笑えた「一日」

新労のばあちゃんも一緒に

三池主婦会

恒例の、三池主婦会主催「敬老会」が行なわれ、あい変らずにぎわった。今年十二回めで、十八歳以上の、組合員家族のじいちゃんやばあちゃんも参加し、一日を心ゆくまで笑って楽しんだ。

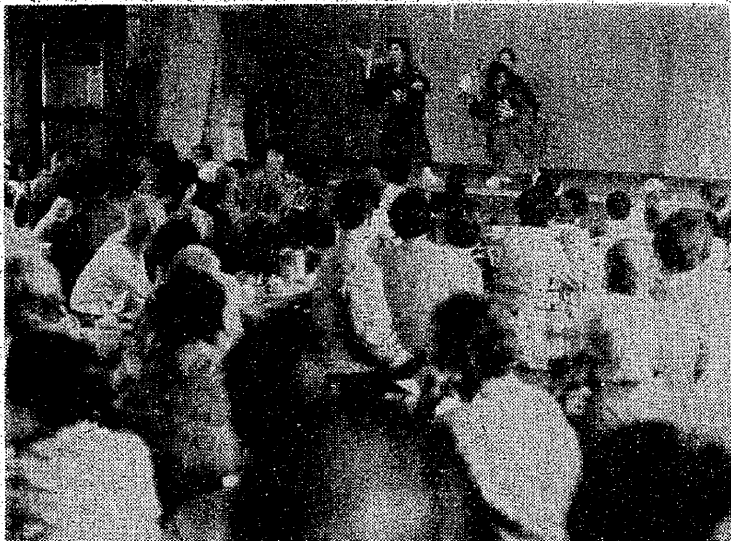
常連といっしょに

主婦会も願かけ

今年はいろんな都合で、去年までみんなが一つに集まってきた方式を変え、大牟田方面が九日、大牟田老人福祉センターに、また荒尾方面が十一日同市の、老人福祉センターと、二つに分かれ、それぞれで敬老会を開いた。三池主婦会も、大牟田老人福祉センターで、敬老会を開いた。

三池主婦会がそのホールを独占して、借りあげたのは不可能で、毎日手ペンドウでここに集まる常連の老人たちと肩をならべての催しとなった。

ところがそれがあって、三池の老人たちにとってもいっそう楽しい雰囲気をつくり出し、参加した老人たちは口々に、「この方が近くて集まりやすい。それに、舞台を争って独占した。新旧の歌心から「日笑って過ごせた」とよ



荒尾市老人福祉センター



写真上が、大牟田の老人福祉センターで、また下が荒尾のセンターで。忘れられない敬老の日の1日だった。

シフをばし、口紅を真っ赤にひいて、いともしなやかに娘になりすましては、手足よろしくおどりをした。

新労の老人も一緒に

第一、常連の老人たちは、踊りに必要な七つ道具のチョンマゲ、すげ、長ばし、はっぱの類を、ちゃんとセンターの占有ロッカーにしまっているのだと聞いたが、ここにはあたいた老人同志を一つに固く結びつける美しい連帯が横から、「この人たちは三池労



ある日、居られませんか。CO患者の夫とともに十年歩いてきた生活は、言葉では表現できない悲慘なものだったと思

「男と女」に思う

港務新港 池田 スミ

「男と女」という例えは、頑丈な夫が、私よりひと足先にこの世を去ったと、妙な好機心からでもありま

この場合、後に生き残った女性はどうなるか。ひと口に「運命」だと割り切ってしまうは、それまででしょうか、なかなか

組人たちは、あなたは新労じゃろ、さ、いっしょに仲よく遊びましょ、が。それと知って、主婦会役員うね

「いやいや、そんなことどう内のかんじやうたげん」

それは、午前十時の開始から、午前三時の終了まで、三池の老人たちにとっては「生きていてよかった」一日となった。それにゆき

かぜ、号と貸切りバスでの送り迎え。

こんど参加したいじいちゃん、ばあちゃんたちにとって、さあ来年のこの催しが楽しみなことであ

なお、なかでも高令の徳永スミさん(明治十八年二月十四日生まれ、今年八十九歳)と宮本武蔵さん(明治二十二年八月十八日生まれ、今年八十六歳)も、これまで

豆ニュース

○砂糖も値上げへ
甘い顔はできません

○核戦の米艦船
カクのどてが懸る

○家計破滅時代
家系も破滅しますよ

○値上げの秋
隣も赤字に悩む人

○一世帯の貯金目減り三十二万円
せめて目減り分の貯金があったらなあ

——貧乏人——
——やりくり世帯——